

各地からのたより

名古屋造林素材生産事業協会の 勉強会で名古屋事務所職員が講演

「名古屋事務所」平成二十三年二月二十五日（金）、竹林中部森林管理局次長をはじめ名古屋事務所職員が講師となり名古屋造林素材生産事業協会の勉強会が開催されました。

竹林次長からは、「森林・林業の再生に向けた国有林の取り組み」と題して、日本の森林・林業が抱える問題点や課題の解決策として「森林・林業再生プラン」の説明と、それを達成するために森林作業道等路網密度を高め、高性能林業機械を導入し、集約化を図ることで、生産性を向上させ、安定的に木材を供給す



竹林次長から「森林・林業再生プラン」について説明

る観点から、国有林として民有林と連携し施業集約化の推進、路網整備を加速化して林業機械と組み合わせた低コスト作業システムを整備し、木材の安定供給に努めることなどを、図解入りで解りやすく説明しました。

植村上席指導官からは、林業専用道の設定指針を、飯村上席指導官からは、森林作業道の作設指針をそれぞれ、写真や図解入りで解りやすく説明しました。

協会からは、これまでにない研修で、これからの業務に生かしていきたいと好評を得ました。

福島小学校へ出前授業の実施

「木曾森林環境保全ふれあいセンター」二月十七日、木曾町立福島小学校四年生四十七名を対象に森林教室の出前授業を実施しました。

福島小学校は、城山国有林が学校の裏山に位置しており、動植物の観察や森林散策など森林学習の場として利用されていて、自然との関わりを大切にしていることから出前授業の依頼を受け、森林教室の実施となったものです。

当日は木曾署のふれあい係長の応援を得て、木曾五木の見分け方の説明の後、ヒノキ間伐木を輪切りにして絵や名前を書いて首に下げるときの作業を計画していましたが、時間の関係で丸太切りまでとなりました。



の箱をと長
さんですす
皆のますす
は鳥の田口
山小の田
城先輩が掛
先掛ける話



ヒノキ



サワラ

授業では、最初に所長から森林の大切さの話をした後、ふれあい係長からクイズ形式で日本や木曾地域の森林について学習を進め、中でも「ヒノキの葉裏の気孔はYの字、サワラはXなんだよ」との説明には、パネルの標本を見て歓声を上げていました。

丸太切りでは、力が必要で大変ではないかと不安なところもありましたが、同級生や先生の応援を受け、楽しそうにノコギリを引いていました。

この後全員が輪切りを持って教室に移動して、仕上げの手順を職員から説明を受け出前授業を終わりました。

これを機会に今まで以上に森林への関心を高め、城山国有林の利用が図られる

ことを期待するものです。

国有林野事業の 取組を地域に発信

「南信署」平成二十二年三月三日に「伊那谷の林業を考える研究会」、三月六日に「森林に学ぶネットワーク」が信州大学農学部において開催され、当署も参加するとともに、国有林野事業の取組について報告しました。

「伊那谷の林業を考える研究会」は、伊那谷流域林業活性化センターが主催し、今回初めて開催したもので、伊那谷の林業関係者約八十名が参加し、基調講演の外、参加六団体の取組内容が発表され、当署からは販売係長が「伊那谷流域における国有林材の流通」と題して、システム販売材や委託販売材の下流域への流通等の説明と現状を踏まえた今後の課題・対策等を発表しました。

基調講演の中で、信州大学経営大学院特任教授のマイケル・ノートン氏からスコットランドの林業の取組を例に、「企業、大学、行政などが林業の分野にとどまらず連携し、一定の成果を得ている。」との話がありました。

最後に、コーディネーターを務めた信州大学の植木教授から「地域林業と叫んでも、隣は何をする人ぞ状態では発展できない。広い視野をもって現状をとらえ、問題を見直すことも必要」とのまとめをもって盛会の内に閉会しました。



発表する森林ふれあい係長

また、「森林に学ぶネットワーク」は、県内の森林・林業関係のNPO法人等が構成する「森林に学ぶ」ネットワーク運営委員会が主催し、今回で十二回目の開催となり、一般の者を含め約七十名が参加し、大学生の外三団体の取組内容が発表され、当署からは森林ふれあい係長が「地域との連携による事業展開」と題して、南アルプス食害対策協議会と連携したニホンジカ被害対策の取組を発表しました。

ニホンジカ対策に関しては、現地の被害をよく知る参加者から様々な情報を得る中で、意見交換等を行い、科学的な調査が更に必要であるとの認識が再確認されました。森林・林業再生プランを踏まえ、民国が一体となった施策の推進が求められている中、このような機会を通じて林業関係者の資質の向上と交流が図られたことは大変有意義なものであり、当署としても地域林業を担う一翼として重

要な位置を預かっているとの認識の下、今後とも連携を深めていきたいと考えています。

田立の滝一般開放に向けて

田立地域の植物勉強会を実施

「南木曾支署」三月七日、田立国有林の田立の滝にて、植物勉強会を行い、南木曾町役場職員と南木曾支署職員合わせて二十名が参加しました。

「田立の滝」は天河滝（高さ四十メートル）を主瀑にうるう滝・らせん滝・洗心滝・霧ヶ滝・不動滝等無数の滝が連なった滝の総称で日本の滝百選に選ばれており、四季を通じて、訪れる人々の目を楽しませてくれる景勝地であります。また、田立国有林は比較的温暖な気候であることから生育する樹木や植物も多く、多くの人が森林浴に訪れるところです。

しかし、平成二十二年と豪雨により滝周辺の山肌が崩壊し危険となったことから、平成二十三年から三年間入山禁止にして、復旧治山工事を実施し、今年度ですべての工事が完了となり、四月から入山が可能になることから訪れる方々にあらためて周辺の植物等の紹介ができるように勉強会を行いました。

当日は、国有林アドバイザーの楯誠治先生を講師に招き、田立地域にある植物について、スライド写真による説明を受けたあと、現地の田立の滝の遊歩道の自然散策をしながらの学習を行いました。



勉強会の様子

四月二十八日の「田立の滝開き」を控え、地元有志による遊歩道の整備も行われる等準備を進めてきました。地域の皆さんと「田立の滝を守り続けていきたい」という思いを共有して、今後もこういった地域との関わりを大切にしながら地域貢献・PRに取り組みしていくこととしています。

シリーズ 現場最前線

意思統一で無災害継続に努める

「東濃署上矢作森林事務所班」

上矢作班は、岐阜県恵那市上矢作町に所在する上村恵那国有林の約四、二〇〇畝で作業を行っています。

当班は、基幹作業職員二名と臨時作業職員二名の計四名体制で活動しており、気心の知れた仲間同士であるため、何で

も言い合える雰囲気です、活気が溢れる現場です。

作業内容は、収穫調査・林道維持修繕・境界巡検・分収育林の明認作業・冬期の除伐Ⅱ類等、多岐にわたる業務を担っています。そのため、日々の業務内容や作業地の条件等を踏まえて、ツールボックスミーティング等で危険箇所や危険な作業動作の確認、効率的で安全な作業方法等について皆で打合せ、意思統一を図っています。

また、上村恵那国有林は急峻な地形が多く、かつ、土質が真砂土であるため林道の陥没や法面からの崩土などが発生しやすいため、降雨後はもとより、日々の林道走行に当たり、防衛運転、かもしれない運転に徹するなど十分に注意しています。

今後もこれらのことを継続し、より一層活気溢れる職場づくりを職員一丸と成って目指し、無災害を続けていく決意です。



収穫調査へ向かう上矢作班の皆さん

古城山風景林

ふう けい き こう
風景紀行
古城山
 71
 岐阜森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

「岐阜署」岐阜県の南西部、濃尾平野の北端部に位置する美濃市に、この山が所在する古城山国有林があります。

美濃市といえは古くは長良川の舟運の集積地として、また美濃和紙の産地として栄えてきたところで、国の重要伝統的建造物群保存地域区の選定を受けた卯建(うだつ)の上がる町並が有名な「和紙とうだつのまち」です。

そんな市の中央部に位置する国有林は、面積二〇八㍻の大部分がヒノキやスギを主体とした人工林になっていますが、標高四三七㍻の古城山は登山道からの眺望に優れていることから、年間一万人を超える人々が登山に訪れ、昭和五十年四月から古城山風景林(七二㍻)に設定されています。

もともとこの山は古名を鈍尾(なたお)山といい、戦国時代から中濃を制覇していた佐藤氏三代の居城でしたが、三

代目の佐藤才次郎方政は関ヶ原の合戦で石田三成方について敗れ、滅亡してしまいました。

現在も山頂には本丸跡があり、四方釣り壁の要塞であったと伝えられる本丸の石垣は半ば埋もれながらも残っています。また、北尾根には数段の曲輪跡が見られ、本丸の東には食料倉庫等が並んでいたという帯曲輪(おびくるわ)跡の細長い平地もあります。

本丸から南には三つの曲輪跡があり、その先にある石垣の大手曲輪跡は登山時に気がつかないほど崩れています。どの曲輪も塀や柵をめぐらした立派な山城であったと思われる、戦国時代を垣間見ることが出来ます。

登山道は市、市民、署、ボランティア団体により軽装で気軽に登れるよう整備されており、麓には森林県岐阜に相応しい「岐阜県立森林文化アカデミー」や「岐阜県森林科学研究所」もあり、森林・林業に関わる勉強、試験研究の場にもなっています。

◆アクセス方法

○マイカー

- ・ 東海北陸自動車道・美濃インターチェンジ↓国道一五六号線を北上↓曾代(そだい) 交差点を西↓美濃市運動公園(駐車場)

○公共交通機関

- ・ 長良川鉄道梅山駅下車↓徒歩三十分↓美濃市運動公園



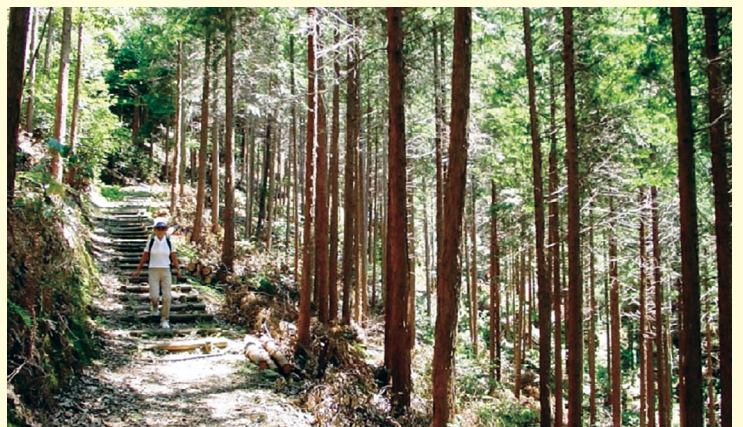
山頂から市街地を望む



古城山



東屋で一休み



整備されている登山道